東洋英和こころの相談室

相談室便り

２００８.１２

スタッフ便り

～今回は、本相談室指導相談員の篠原道夫先生に登場いただきました。篠原先生は、日本箱庭療法学会第 21 回大会において、第８回河合隼雄賞（奨励賞）を受賞されました。～

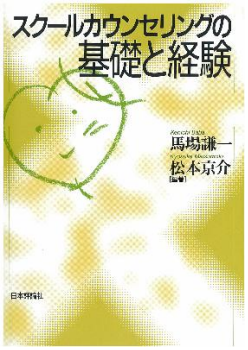
スクールカウンセリングの落語と経験

篠原道夫

（本学准教授/東洋英和こころの相談室指導相談員）

昨年，河合隼雄先生が逝かれた。大きな損失であった。死後もなお先生のお仕事が世に現れている。『河合隼雄のスクールカウンセリング講演録』（創元社）も，その一つだ。先生の著作は網羅的に愛読しているので，目新しいことはないだろうと予想した。また，一部の講演はすでに専門誌上で活字になっていた。

実際，この本に目を通してみると，先生の膨大な著作群の中で何度も取り上げられたエピソードについて，すでに知っていることが書かれていた。私の予想通り，目新しいことは見当たらなかった。ところが，河合先生の話の一つひとつが，耳に痛い。心理臨床家として，教師として，人間として，現在の自分について改めて考え直させられる力を持った話である。あらかじめ落ちが分かっているにもかかわらず，面白くて，心に刺さった。その意味で，落語に似ている。



今年，恩師馬場謙一先生が『スクールカウンセリングの基礎と経験』（日本評論社）を編まれた。こちらは「落語」的ではなく，学校臨床の経験例が豊富に盛り込まれていることが特徴である。執筆者の陣容は，馬場先生の周りに集まった心理臨床家であり，ほとんどが精神分析理論に立脚している。しかし，“スクールカウンセリングをこれから学びたい”，あるいは“これから始めよう”としている初学者向けに，「分析臭」をできる限り抑える工夫がされている。ちなみに，私も「適応指導教室の意義―サナギとしての不登校」という小論を寄せている。

昨年より本学でも教職課程を設置し，中学校・高校の教諭の養成を始めた。

私も微力ながら「教育相談」という科目を担当し，養成の一翼を担っている。子どもの心理的世界を分かちあうためには，常識的な理解の仕方を脇に置かなければならない時がある。カウンセリングという道具立ては，常識的理解を超えるためのジャンピングボードである。私自身も，教育相談畑で育った。そのため，子どもの心を深く感じる力を備えた教諭が一人でも多く誕生することを，心から願っている。

待合コーナーのパーテーションが変わりました

10 月より、地下２階こころの相談室待合コーナーのパーテーションが新しくなりました。

今年度は“相談にいらっしゃる方が落ち着いていることの出来る空間作り”をテーマに、待合コーナーのレイアウトを少しずつ変更してまいりました。

新しいパーテーションは、木製のフレームにスリガラス風のプラスチックが入ったデザインです。廊下や階段から中にいる人の姿ははっきり見えないように配慮しつつ、人の気配は感じられるようオープンなスペースになっています。

観葉植物と新しいパーテーションで“守られた空間”となりました。相談にいらっしゃる方それぞれが心を落ち着けて、面接を迎える準備が出来る空間となりました。

冬季休室のご案内

下記の日程で、相談室は冬季休室となります。

2008 年 12 月 23 日（火）～2009 年 1 月 7 日（水）

発行　東洋英和こころの相談室　　TEL　03-3583-7463

開室時間　月～金曜日（木曜を除く）　午後２時～午後８時

木曜日　午後１時～午後８時

土曜日　午前９時～午後６時　　休　室　　日曜日・祝日

URL：http://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/kokoro/kokoro.html